

## 【今週の注目疾患】

## 【カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症】

2021年第5週に県内医療機関から1例のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(Carbapenem-Resistant *Enterobacteriaceae*: CRE)感染症の届出があり、2021年の累計は6例となった。県内医療機関からのCRE感染症の届出は、年70例前後で推移しており、2020年は63例の届出を認めた。63例の届出における菌種の内訳は、*Klebsiella aerogenes*が25例と最も多く、次いで*Enterobacter cloacae*が21例、*Klebsiella pneumoniae*が6例と続く。その他は*Citrobacter freundii*1例、*Citrobacter youngae*1例、*Escherichia coli*1例、*Klebsiella oxytoca*1例、*Serratia marcescens*1例、未記入等6例であった。患者は男性42例（年齢中央値73.5歳：範囲49～89歳）、女性21例（年齢中央値72歳：範囲12～100歳）であった。症状（重複あり）は、肺炎19例、尿路感染症16例、菌血症/敗血症11例、胆嚢炎/胆管炎6例、腹膜炎3例、髄膜炎1例であった。

CRE感染症において、地域における流行状況や当該耐性菌のカルバペネム耐性機序を把握するためにはPCR法等を用いて詳細な解析を実施する必要がある。特にカルバペネマーゼ産生菌(Carbapenemase-Producing *Enterobacteriaceae*: CPE)は広域β-ラクタム剤に汎耐性を示し、また同時に他の複数の系統の薬剤にも耐性であることが多いため、臨床的に大きな問題となる。2020年に届け出られた63例の患者由来株のうち、県衛生研究所でPCR法と阻害剤を用いて検査が実施された30株のカルバペネマーゼ遺伝子検出状況は、10株がIMP型であり、1株がNDM型カルバペネマーゼ遺伝子を有していた。KPC型、OXA-48型はなかった。IMP型10株の菌種は、*E. cloacae*6株、*C. freundii*1株、*C. youngae*1株、*K. oxytoca*1株、*K. pneumoniae*1株であり、NDM型1株の菌種は*E. coli*であった（表）。CRE感染症においては、患者発生動向調査に加え、分離株の耐性機序の検査を引き続き実施し、県内におけるCRE感染症の動向をサーベイランスしていくことが重要である。

表：2020年県内医療機関から届け出られた  
CRE感染症患者から分離されたCREの薬剤耐性遺伝子の検査結果

菌種	検査数	カルバペネマーゼ遺伝子型			
		IMP型	NDM型	KPC型	OXA-48型
<i>K. aerogenes</i>	13				
<i>E. cloacae</i>	8	6			
<i>C. freundii</i>	1	1			
<i>C. youngae</i>	1	1			
<i>E. coli</i>	1		1		
<i>K. oxytoca</i>	1	1			
<i>K. pneumoniae</i>	5	1			